

---

# 嬉野市新庁舎建設 基本設計(案)概要説明書

- 設計の基本方針
  - (1)設計コンセプト
  - (2)敷地概要・建物概要・工程
- 計画概要
  - (1)配置計画の基本方針
  - (2)平面計画の基本方針
  - (3)景観・色彩計画の基本方針
  - (4)ユニバーサルデザイン計画の基本方針
  - (5)防災・BCP計画の基本方針
  - (6)環境計画の基本方針

令和5年12月

---

# 1. 設計の基本方針

## (1) 設計コンセプト

### 「嬉野の環境+風景」に呼応し、地域や市民をつなぎ育む『交流拠点庁舎』

新庁舎建設の設計にあたり、「嬉野市新庁舎建設基本計画」の基本理念にある「すべてのひと・自然にやさしい安全・安心なうれし舎(や)」に基づき新庁舎を計画します。

嬉野市は唐泉山などの美しい山々や塩田川などの豊かな自然に囲まれています。また、その豊かな自然と「塩田津の居蔵造りの町家」や「嬉野宿のまちなみ」に見られる自然環境と共生した建物の造りは、来訪者をあたたかく迎え入れる嬉野市の風景となっています。

この嬉野市の風景を「やまなみ屋根」と「3重庇」として新庁舎の『かたち』に取り込み、環境にも配慮した新庁舎とします。また、周辺公共施設をつなぐ『嬉野プロムナード※』やにぎわいの場にもなる『交流プレイス』により、嬉野市全体に市民交流が表出する『交流拠点庁舎』を目指します。

更に、コンパクトかつシンプルな新庁舎とし、工事費縮減と時代の変化に柔軟に対応可能な計画とします。

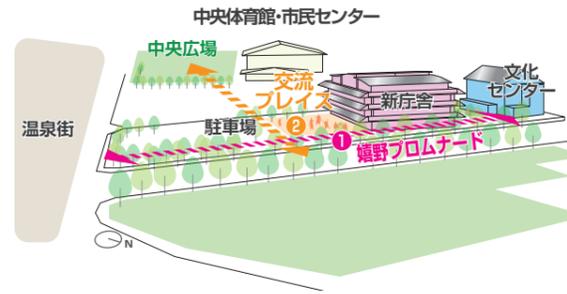
### 地域をつなぐ『軸』と『場』

#### ① 連携の軸となる『嬉野プロムナード※』

- 人口変動や公共の社会的ニーズに対して、県道沿いに新庁舎を中心とした『連携軸』をつくり、新庁舎と文化センター、まちと新庁舎をつなぎます。

#### ② 公共施設の連携を促す『交流プレイス』

- 新庁舎駐車場の一部を、周辺の公共施設や広場とつなげる『にぎわいの場』としても使えるよう計画し、まちにぎわいを広げます。



※プロムナード：散歩道、遊歩道など、歩くという目的以上の豊かな場を提供する道

## (2) 敷地概要・建物概要・工程

### ■敷地概要

- 所在地：嬉野市嬉野町大字下宿乙1185番地、1298番地
- 敷地面積：9742.23㎡（測量面積）
- 用途地域：都市計画区域内／区域区分非設定(非線引都市計画区域／第二種住居地域)
- 地域地区：防火地域指定なし(法22条区域)、埋蔵文化財包蔵地(0023鷹巣遺跡)嬉野市景観計画(市街地ゾーン)
- 日影規制：あり
- 法定建蔽率：60%
- 法定容積率：200%
- 道路：
  - 東側：県道佐世保嬉野線（幅員約20m）
  - 南側：市道野畑大定寺線（幅員約7～10m）
  - 西側：市道第六区画1号線（幅員約7m）
  - 北側：市道第六区画10号線（幅員約6m）

### ■工程

事業工程	令和5年度(2023年度)					令和6年度(2024年度)					令和7年度(2025年度)					令和8年度(2026年度)																
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
基本・実施設計	基本・実施設計																															
工事・発注関係	第一庁舎改修設計					第一庁舎改修工事					発注					建設工事(16.0)					引越し・開庁					外構工事						
	第二庁舎解体設計					文化センター改修工事					第二庁舎解体工事					第一庁舎解体設計					第一庁舎解体工事											

### かたちを生み出す5つのコンセプト

#### ① 風景をとりこむ

周辺の山々に調和した「やまなみ屋根」と居蔵造りをモチーフとした「3重庇」を外観デザインに取り込みます。

#### ② 環境をとりこむ

「やまなみ屋根」と「3重庇」で、強い日射を遮り、太陽光エネルギーや澄んだ空気、豊富な雨を最大限活用します。

#### ③ コンパクトにつくる

3層+議場の低層コンパクト庁舎とし、周辺環境と調和した圧迫感のない庁舎ボリュームとします。

#### ④ シンプルにつくる

バランスの良い架構計画とシンプルなゾーニング計画で、可変性のある平面空間を可能とします。

#### ⑤ あるもの(既存の財産)を活かす

文化センターや既存杭を活かし、建設費を削減します。また、既存樹木を保全して憩いの場をつくれます。

### ■建物概要

- 用途：庁舎
- 庁舎建築面積：約1600㎡
- 庁舎延床面積：約5760㎡
- 1階床面積：約1480㎡
- 2階床面積：約1500㎡
- 3階床面積：約1500㎡
- 4階床面積：約1280㎡
- 階数・構造：4階・鉄骨造
- 耐火建築物等：耐火建築物
- 建物最高高さ：約19.4m
- 庇・渡り廊下：約450㎡
- 倉庫・車庫：約270㎡
- 駐車台数：計139台
  - 来庁者用：計71台(身障者用4台含む)、公用車用：53台
  - 文化センター用：計15台(身障者用2台含む)

## 2. 計画概要

### (1) 配置計画の基本方針

#### 『施設の連携による敷地全体の活性化』と『誰にとっても利用しやすい』配置計画

将来の人口動態を見据え、隣接する文化センターを新庁舎の会議室に利用するなど、既存の財産を活かした無駄のない計画により新庁舎をコンパクトに計画します。

敷地内の施設をつなぐ『嬉野プロムナード』を中心とした配置計画とし、文化センターとの間には『読書テラス』を整備することで、敷地全体の活性化を促し、施設全体がまちの交流拠点となることを目指します。

駐車場は利用者の安全を確保した誰にとっても利用しやすい配置とします。また、来庁者駐車場の一部は、土日などイベント時には『交流プレイス』として多機能に利用可能な場とします。

身障者駐車場や車寄せを庁舎南側に設け、庁舎出入口に近い位置に配置します。また、利用者が雨に濡れないように庇を設けます。



読書テラスのイメージ



交流プレイスのイベント利用時イメージ



鳥瞰イメージ

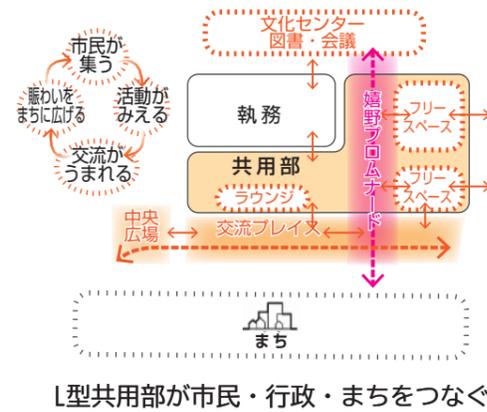


(2) 平面計画の基本方針

「市民に開かれた共用部」と「明快なセキュリティ」を両立する庁舎

■市民・行政・まちをつなぐ開かれた L型の共用部

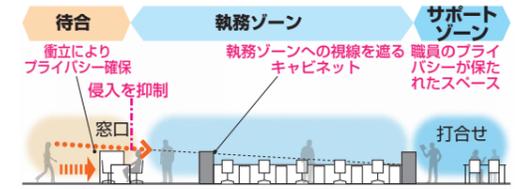
- 1階は南北をつなぐ『嬉野プロムナード』を軸に県道側にフリースペース等を設け、南側には『交流プレイス』に沿うラウンジを配置し、L型の共用部を形成することにより、屋内外の賑わいを一体的に感じられる空間を目指します。
- 2～4階は東側に共用部を計画し、会議室・打合せスペースなどを配置することで、活動の様子を表出させ、賑わいをまちに広がります。



L型共用部が市民・行政・まちをつなぐ

■新たな働き方を見据えたフレキシブル庁舎

- 柱の少ない構造とコア（階段・エレベーター）の東西配置により、自由なオフィスレイアウトが可能な計画です。
- 組織改編や用途変更、将来変化に柔軟に対応できる計画とし、ユニバーサルレイアウト※を基本とします。また、フリーアドレスによる柔軟なレイアウトが可能な構成とします。
- 執務エリアの窓際はサポートゾーンとし、職員の打合せコーナーやオンライン対応のブースを設けるなど、働きやすい執務空間を目指します。

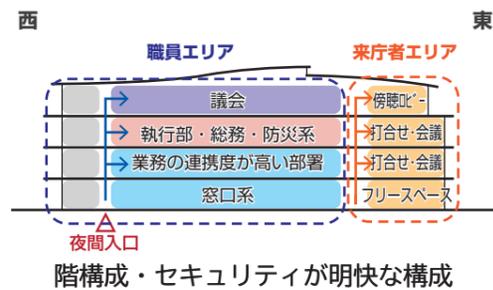


執務エリアの主な考え方

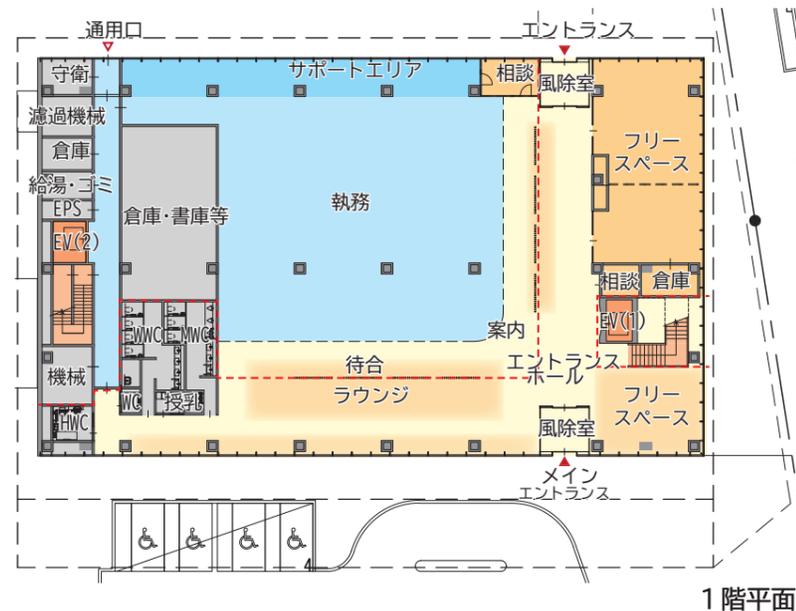
※ユニバーサルレイアウト：レイアウトの標準化を行ない、組織変更があっても基本的にレイアウト変更をせずに「人」「書類」の移動のみで対応可能なワークスペース。机の並び替えや電話線・ネットワーク配線を変更する手間やコストが発生せず、フレキシブルにワークスペースを運用することが可能。

■明快な階構成・セキュリティの設定

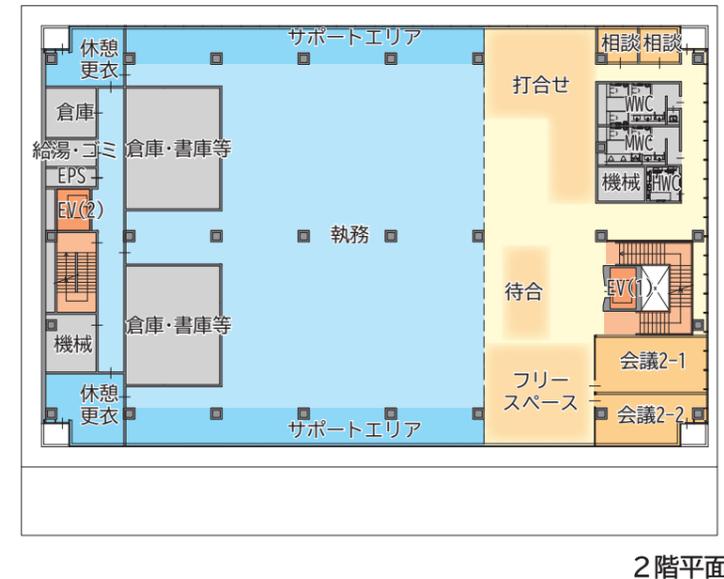
- 市民利用の多い窓口を1階、業務の連携度が高い部署を2階、執行部・総務・防災系を3階、独立性を確保できる4階に議会を配置した階構成です。
- 庁舎内の西側は職員専用エリア、東側は来庁者エリアとした明確なゾーニングとします。
- 1階共用部を開放できる明快なセキュリティ区画を形成し、土日等に開放することも可能な計画とします。
- 4階委員会室は共用部側にも設けており、議会閉会時は会議室などとしての利用が可能な計画とします。



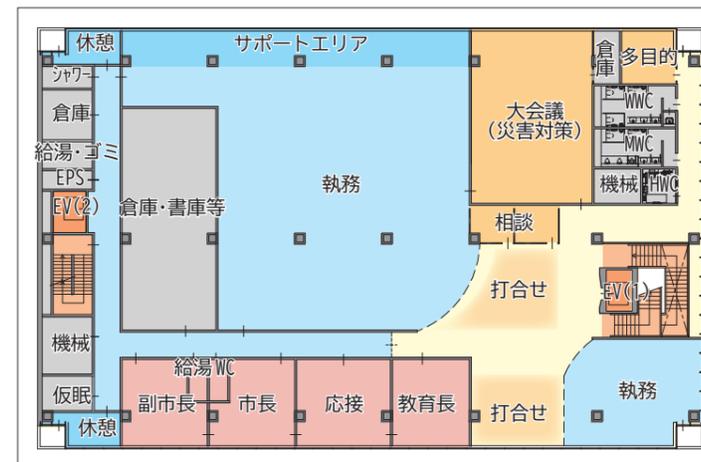
階構成・セキュリティが明快な構成



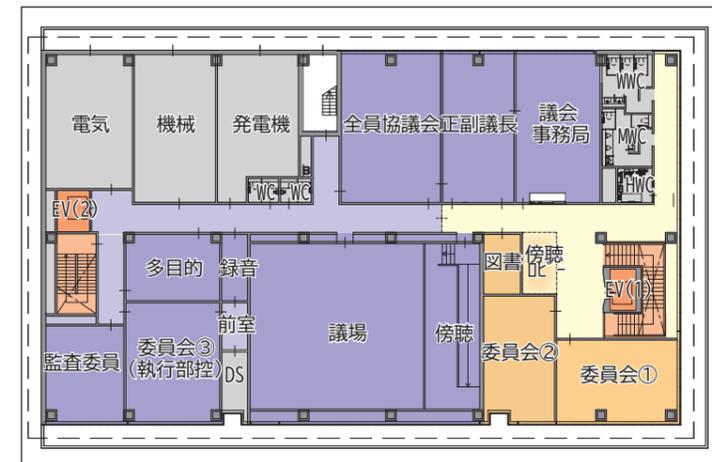
1階平面



2階平面



3階平面



4階平面

### (3) 景観・色彩計画の基本方針

#### 景観計画の基本方針

##### ■周辺環境との調和

- ・市の豊かな自然の風景に配慮するとともに、高層な建物の少ない周辺環境であることから、建物が低く見えるように最上階のセットバックと山並み状の屋根にすることで建物のボリューム感を低減します。

##### ■自然環境との調和

- ・「塩田津の居蔵造りの町家」や「嬉野宿のまちなみ」に見られる居蔵造りをモチーフとした「三重庇」を設け、強い日射を遮ります。
- ・「三重庇」の南面には太陽光発電パネルを設ける等、自然エネルギーの活用を目指します。

##### ■嬉野市の風景に合った建材選定

- ・居蔵造りの町家の瓦屋根と白壁をモチーフに、屋根はグレー系の金属屋根等、壁や軒天は白色系統の建材等を用いて、嬉野市の風景に合った外装を目指します。
- ・窓については清掃性に配慮した計画とします。



アイレベルイメージ

#### 色彩計画の基本方針

##### ■温かみの感じられる窓口空間

- ・文化センターとの連続性や庁舎内外の連続性を感じられるように1階には同色系の床材（磁器質タイル等）の使用や、温かみを感じられるような天井材の使用を目指します。
- ・県産材など地元素材を出来る限り活用することを目指します。

##### ■適材適所な内装仕上げ材の選定

- ・執務室内はタイルカーペット等を採用し、吸音性能を確保します。
- ・2階3階の共用部は木目調のビニル床タイル等の採用を検討し、防汚性に配慮します。



1階共用部イメージ



議場内イメージ

#### (4)ユニバーサルデザインの基本方針

障がい者・高齢者・お子様連れ等、各々のニーズにきめ細かく対応したユニバーサルデザインを徹底し、明るく快適な空間とし、来庁者が過ごしやすく職員が働きやすい新庁舎とします。また、『高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律』、『佐賀県福祉のまちづくり条例のユニバーサルデザイン施設整備基準』に基づいた施設計画を行います。

##### ■わかりやすいアプローチ

- ・視覚障がい者に配慮した明度差のある誘導ブロックを設置します。
- ・玄関ホールからエレベーターや階段、トイレの場所が分かりやすい計画とします。
- ・メインアプローチは、段差のない計画とし、床の仕上げは滑りにくい舗装を採用します。

##### ■階移動が容易な内部動線

- ・不特定多数が通行する廊下については、車いす利用者やベビーカー利用者に配慮したゆとりある幅とします。
- ・階の移動については、車いす利用者や視覚、聴覚障がい者に配慮した階段・エレベーターとします。

##### ■誰にでも使いやすいトイレ

- ・各階にバリアフリートイレを設置し、オストメイト\*対応とします。
- ・一般トイレにおいても、手すりや誰にでも使いやすい高さの小便器を設置し利便性に配慮します。

##### ■子育て世代に優しい設備

- ・授乳室は1階トイレに隣接して配置します。
- ・ベビーシートやベビーカーチェアを適宜設けます。
- ・1階にはお子様連れの方が子供を見守りながら相談できるスペースを設けます。

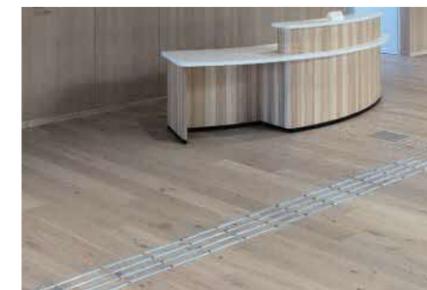
##### ■わかりやすく利用しやすい総合案内・窓口カウンター・サイン・情報ツール

- ・窓口カウンターは車いす利用者や高齢者が利用しやすい高さ・形状とし、使いやすさに配慮します。
- ・情報コーナー、掲示板、案内板は誰もが分かりやすい位置、高さ、形状とします。

##### ■誰もが傍聴しやすい議場環境

- ・議場の傍聴席は車いす利用者用のスペースが確保可能な計画とします。
- ・傍聴ロビーを設け、議場内に入らなくとも視聴可能な環境を整備します。

※オストメイト：病気や事故などにより、お腹に排泄のための『ストーマ（人工肛門・人工膀胱）』を造設した人。ストーマ用装具を装着することによって、手術前と同じように社会生活を送ることが出来ます。



誘導ブロックのイメージ



バリアフリートイレのイメージ



身障者用駐車場のイメージ

#### (5)防災・BCP\*計画の基本方針

本建物は、庁舎施設として求められる機能性・快適性・安全性を確保するとともに、経済性・耐久性・施工性を十分に考慮して設計します。また、災害時における安全性に関しては、人命確保はもちろんのこと、防災拠点施設としての機能保持が出来るよう構造躯体の損傷防止を図り、大規模停電時も自立的に機能維持できるシステムを備え、災害後も継続利用が可能な建物を目指します。

##### ■耐震安全性の目標

- ・上部構造の地震時における耐震安全性の目標は、災害拠点として、大地震後、構造体が直ちに補修を必要とするような耐力低下を招かないことを目標とし、人命の安全確保はもとより、災害応急対策活動等の十分な機能確保を図ります。
- ・嬉野市新庁舎建設基本計画に基づき、国土交通省が定めた『官庁施設の総合耐震計画基準』より、構造体の耐震安全性：I類、建築非構造部材の耐震安全性：A類、建築設備の耐震安全性：甲類とします。

##### ■構造計画の概要

- ・各選定に関して耐震性能、工期、コスト等の観点から比較検討を行いました。
- ・構造形式は、耐震性能とコストを考慮し、「耐震構造」を採用します。
- ・構造種別は、空間性、工期ともにコンクリート造よりメリットの高い「鉄骨造」を採用します。
- ・基礎構造種別は、沈下等の障害を生じさせることなく上部構造の機能確保に有害な影響を与えないものとし、かつ耐久性・経済性のバランスや地盤調査の結果から直接基礎（地盤改良）を採用します。

##### ■BCP\*設備計画の概要

- ・自家発電設備の設置や、自立運転機能付の太陽光発電設備の設置を行い、自家発電設備の容量等は、燃料備蓄量72時間、連続運転可能時間を1週間（燃料補給を前提）とします。
- ・3階を災害活動の拠点フロアとし、災害拠点室、災害活動支援室、活動上重要な設備室、活動通路等を区分けし、災害時も照明、コンセント、空調を必要な場所に供給出来る計画とします。

※BCP：Business Continuity Planningの略。非常事態発生時において優先的に遂行する必要がある業務を選定した上で、非常事態が発生した場合には、当該業務の遂行のために必要な資源を優先的に確保できるよう計画すること。

## (6)環境計画の基本方針

自然を取込む特徴的なかたちでCO<sub>2</sub>排出を抑え、既存樹木や県産材の積極的活用でCO<sub>2</sub>を吸収し、カーボンニュートラルを先導する、経済的な『環境親和型庁舎』を目指します。

地球環境への影響を最小限に抑えるため、エネルギー消費量の少ない高効率設備機器を採用し、太陽光等の再生可能エネルギーの活用を行うことで、『ZEB Ready<sup>※1</sup>』庁舎を目指します。また、建物の長寿命化、維持管理費用の低減等の費用対効果に優れた設備・構造を採用し、ライフサイクルコストにも配慮します。

### ■熱負荷を抑制し、風を取込むかたち

- ・「3重庇」により、夏期の日射侵入負荷を低減し、中間期はコアングダ効果<sup>※2</sup>で嬉野市の澄んだ空気を室内に導きます。
- ・夏期の夜の涼しさを活用したナイトパージ<sup>※3</sup>によって翌日の空調立ち上がり負荷を抑制します。

### ■太陽光を取込むかたち

- ・完成時には、「3重庇」の南面に太陽光発電設備(30kW)を設置し、庁舎内の電力消費の削減を目指します。
- ・竣工後の建物利用状況により必要なエネルギーを算定し、必要なエネルギーを補う太陽光発電設備を将来庁舎の『やまなみ屋根』に設置検討し、更なる省エネ・省CO<sub>2</sub>の推進を目指します。

### ■雨を利用するかたち

- ・豊富な雨量を活かし、散水、便器洗浄水利用により上下水道費を低減します。

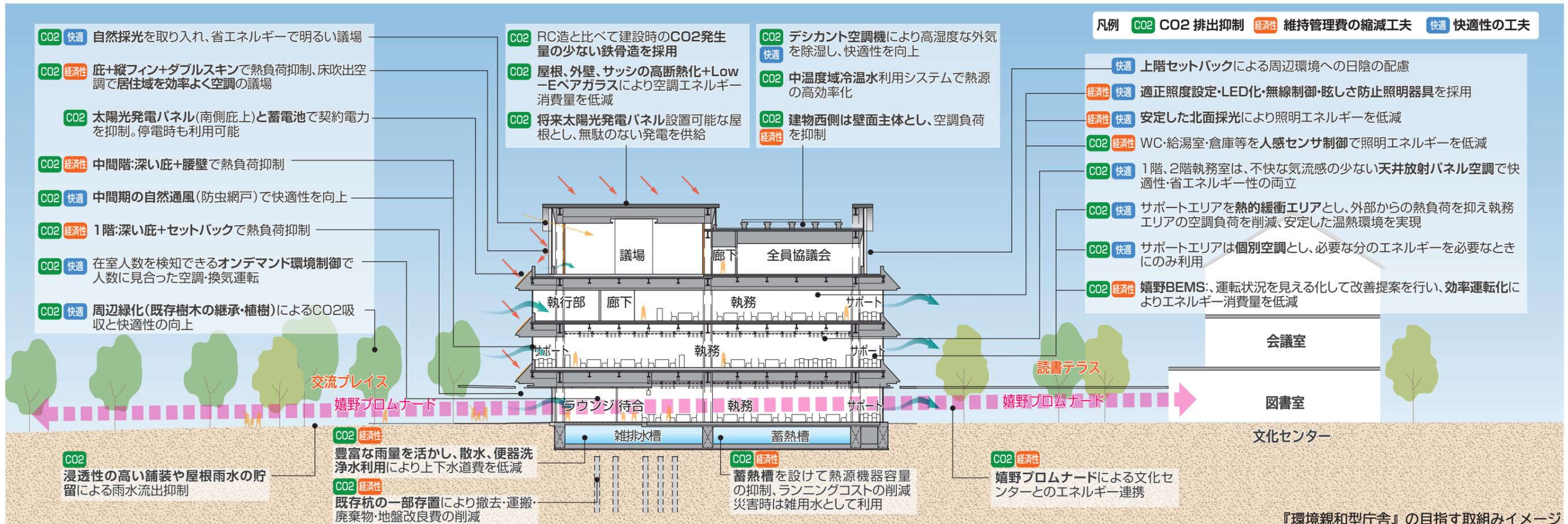
### ■省エネ技術で実現する費用対効果の高い快適な環境計画

- ・健康で心地よく働ける環境(ウェルネスな環境)を整えることは、市民サービス(市民満足度)の向上につながります。
- ・執務室は搬送動力が空気に比べて小さい水を利用した天井放射パネル空調<sup>※4</sup>の採用を目指します。床吹出しと併用することで不快な気流感を抑えて省エネと快適性を両立させます。
- ・赤外線アレイセンサ<sup>※5</sup>によって人数検知し空調・照明の制御(抑制)を行い、エネルギー消費量を削減します。



天井放射パネルの事例

- ※1：ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)Ready：快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のことを示すZEBシリーズの中で、再生可能エネルギーを除き基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物。
- ※2：コアングダ効果：風などの流体が近くの壁に沿って引き寄せられる現象。
- ※3：ナイトパージ：外気温度が建築物内の温度以下となる夜間を中心に、外気を室内に導入することで躯体等に蓄冷する方法。
- ※4：天井放射パネル空調：天井面に設置した放射パネルを冷却・加熱し、空気を介さず直接人体との熱交換により冷暖房を行う
- ※5：赤外線アレイセンサ：物体から放射される赤外線を受光して、温度分布データ(熱画像)を出力するセンサ。



『環境親和型庁舎』の目指す取組みイメージ